

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十八主日礼拝のしおり

2021年9月26日

前奏：

聖名による挨拶

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編 119 編 8-11,15 節

あなたの掟を守ります。どうか、お見捨てにならないでください。

どのようにして、若者は歩む道を清めるべきでしょうか。

あなたの御言葉どおりに道を保つことです。心を尽くしてわたしはあなたを尋ね求めます。

あなたの戒めから迷い出ることのないようにしてください。

わたしは仰せを心に納めています。あなたに対して過ちを犯すことのないように。

わたしはあなたの命令に心を砕きあなたの道に目を注ぎます。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。

アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしくより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も礼拝で救い主であり主である主イエス様は、み言葉によって私たちを優しく導いてくださいます。私たちはイエス様によって罪赦され、新しいいのちを生きます。そしてイエス様はいつも福音にふさわしくあるように、自分に厳しくあるようにと導いてくださいます。どうぞ私たちのこの一週間が、すべての人と幸せを共有する歩みとなるように祈ります。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヤコブの手紙5章 13-20節

あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいいる人は、賛美の歌をうたいなさい。あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してください。だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年半にわたって地上に雨が降りませんでした。しかし、再び祈ったところ、天から雨が降り、地は実をみのらせました。わたしの兄弟たち、あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を真理へ連れ戻すならば、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から救い出し、多くの罪を覆うことになる、知るべきです。

福音書朗読：マルコによる福音書 9章 38-50節

ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたち

に逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。はっきりしておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。もし片方の手があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。もし片方の足があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両足がそろったままで地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても命にあずかる方がよい。もし片方の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出しなさい。両方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。人は皆、火で塩味を付けられる。塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」

説教：「互いに平和に過ごしなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

弟子たちはまだイエス様がどなたなのかかわかっていませんでした。弟子たちはイエス様の救いがどんなものなのか、ある程度の予想はしていたのですが、それは大きく修正されなければなりませんでした。今朝開かれたマルコの福音書9章50節では、神の国に入る人は自分自身のうちに塩気を保っている人です、とイエス様はおっしゃっています。また、互いに平和に過ごす人です、とおっしゃっています。弟子たちの何が不十分だったのでしょうか。何が修正されるべきだったのでしょうか。それは三つあります。神様が仕えてくださるといふ幸せに目をとめていなかったこと、人々に仕えてほしいと間違っただけ願っていたこと、隣人を、神様から大事にされている大切な人として愛していなかったことです。

ペテロやヨハネを含むお弟子たち十二人はイエス様に従って歩んできました。たくさんの不思議なわざをして神様の権威を帯びていると思われたイエス様のことを、当時の人々は、もうすぐ来る神の栄光のために道備えをする人だと受け止めていました。そんなイエス様のことを弟子のペテロは、あなたは救い主です、と告白しましたね。イエス様、あなたは何かの道備えをする人ではなく、みんなが待っている救い主、メシアその人です、という信仰の告白をしました。しかし、そのすぐ後でイエス様が、ご自分は今からエルサレムに行って十字架にかけられて死に、三日目によみがえるのだ、という第1回目に予告を聞いて、ペテロにはどうしても受け入れることができませんでした。ペテロが待っていた救い主は、ローマ帝国の属国だったイスラエルの国を復興して、かつてのダビデ王国のように世界に君臨する王国にしてくれる王様だったからです。それでペテロは、イエス様、王となるはずのあなたが苦しめられて死なれるなんて、決してそんなことがあってはいけません、とイエス様をわきへ呼んでいさめました。

するとどうでしょう。ペテロはイエス様から、さがれ、サタン、あなたは人のことを思って神のことを思っていない、とおしかりを受けました。この世の映画を極め、豊かになり、他国を支配しても、それが神の国というわけではありませんでした。イエス様がお立てくださる神の国は、罪の赦しとあたらしい命の国です。イエス様は本当の幸せを与えてくださいます。富や健康、友情や知恵は大切で必要なことです。しかし私たちはそれらを頼りにすることはできません。それらを求めること心は不安です。一時的にそれらを持つことができたとしても、私たちは高慢になります。また、持っている者を失ってしまわないかと取り越し苦労をします。それでは不幸ですね。ダビデ王のようにイスラエルの国を再興しても、外面的な自由や豊かさは人を幸せにするとは限りません。イエス様は罪の赦しと新しいいのちを与えてくださる救い主です。ご自分が苦しみ、死んでくださって、私たちと神様の間を隔てている罪を赦して、神様の子どもとしてくださいます。テモテへの第1の手紙6章11節には「高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように」と勧められています。イエス様は私たちにこの幸せを与えてくださいます。人のことを思わず、神のことを思う、というのはこのイエス様の赦しといのちに信頼することです。イエス様がご自分のいのちを与えてくださるほどに私たちを愛し、私たちに喜んでお仕えくださるといふ幸せに目をとめましょう。

さて、先週のお話では弟子たちがお互いに、だれが一番偉いのか、と議論していたところが開かれました。自分が誰かに仕えるのではなく、人々に自分が仕えてほしいと間違っていたのです。それはイエス様がこれからエルサレムに行って、そこで民の指導者たちに苦しみを受けて、死んでよみがえることを二回目に予告なさったすぐ後のことです。弟子たちにはまだこのイエス様の苦しみの意味がわかりませんでした。それで救い主のイエス様が王様になってくれたら、誰がイエス様に続く大きな力をふるう指導者になれるのか、と議論していたのです。けれどもイエス様は王になるためではなく、人々の罪が赦されるためにご自分が苦しみを受けるために来られました。それで弟子たちに、一番に鳴りたい者はすべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい、と言われ、そこにいたひとりの子どもの手を取ってみんなの真ん中に立たせ、その子どもを抱き上げてくださって、「わたしの名のためにこのような子どものひとりを受け入れる者はわたしを受け入れるのであり、またわたしをお遣わしになった父なる神様を受け入れるのです」とおっしゃいました。カフェルナウムのおうちで十二弟子の真ん中でイエス様は小さな子どもを優しく抱き上げておられます。神様はこのような子どもを大切にくださっている、だからあなたがたも誰が偉いかと争うのではなく、神様が大事にしている子どもを大切にしなさい、とイエス様は言われました。弟子たちは自分が偉くなれる、と間違っていたのでした。そうではない、とイエス様はおっしゃいました。むしろ、どんな人をも受け入れ、どんな人にも仕えること、そのために犠牲を覚悟していることを教えられたのです。子どもを抱き上げて教えられたのですから、今度こそ弟子たちにはわかってほしかったですね。

ところがそれに続く今日読まれた箇所では、弟子たちがまだ悟っていないことが記されています。イエス様がその子どもをまだ抱いておられる間に、弟子のひとりのヨハネが少し得意げに、イエス様と他の弟子たちの前で、自分のしたことを紹介しています。イエス様のお名前を用いて悪霊を追い出している人がいましたが、私たちの弟子仲間ではなかったのをやめるように言いました、というのです。ヨハネが言うのは、私たちはイエス様に従ってきた正当な弟子だけれど、弟子ではないのにイエス様の権威を勝手に使っている迷惑な不屈き者がいたのでやめさせようとした、ということです。しかしイエス様はヨハネに、いや、やめさせないようにしなさい、と告げました。理由は3つありました。イエス様のお名前を使って奇蹟をする人はイエス様のお名前を汚すようなことはしないで、逆らわない者は味方だし、キリストの弟子だからというので親切に一杯の水をくれる人ならば、その人は神様からご褒美をうけるからです。

ヨハネは話しをそらしてしまっていたようです。隣人を、神様から大事にされている大切な人として愛していません。イエス様が抱き上げておられる小さな子どもを忘れています。ヨハネは、イエス様に身近においていただき、大切にしている自分たちのグループは、ほかの人々とは違って最も価値がある、と判断しています。にわか仕込みのわざではなく、ずっと最初から私たちはイエス様に従っているのだ、ということで慢心して傲慢になっています。すべての人を大切にされるイエス様に、名前を呼んでいただき導いてきていただいたのに、それを自分たちが何者かであるかのように思ってしまい、イエス様が大切にされている人々を排除しようとしています。傲慢は人を遠ざけ、人を見下し、遠慮や礼儀のない命令をしても何とも思いません。

ヨハネにイエス様は、なぜイエス様が大切だと言っている人々をあなたは大切にしないのか、躓かせてしまうのか、と諭しておられます。そして、小さな者を躓かせることはあなたにとってはそんなに大きな過ちではないと考えているかもしれないが、実は大きな厳しい裁きが待っていると教えています。イエス様が懐に抱いてくださっている小さな子どものように、イエス様に信頼しているどんな人でも躓かせるような人は、石臼を首にかけられて海に投げ込まれて浮かんでこない方がはるかによいのです。神様が大切に作る小さなものをまどわすようにとあなたの片手、片足、片目があなたを躓かせるなら、それらを切り捨てめぐり出して神の国に入る方がよいのです。ヨハネは自分の考えがそんなに大きな災いを招くことになるとは思っていませんでした。小さな者を躓かせるのは大きな罪なのです。小さな人を大切にしないで、そうでないと地獄の燃える火に投げ込まれますよ、とイエス様は弟子たちに言われました。

弟子たちは神様が仕えてくださるという幸せに目をとめていなかったこと、人々に仕えてほしいと間違って願っていたこと、隣人を神様から大事にされている大切な人として愛していませんでした。ペテロはイエス様がこの世でイスラエルの人々だけの幸せをつくってくださる救い主だと考えていました。弟子たちはみんな、自分が一番偉いのではないかと議論しました。

どこまでも自分の幸せ、自分たちの幸せから気持ちが離れないのです。救い主のイエス様ととも親しくさせていただいている自分の特権や自分たちの幸せが奪われないように、ここから中には入ってこないように、と人との間に線を引きます。自分中心の冷たい心ですね。

イエス様はそんな私たちの罪のために十字架にかかって死んでくださいました。私たちの罪をすっかり赦してくださいませ。私たちに新しいいのちを与えてくださり、神様の子どもとして幸せを人々と共有して歩ませてくださいます。私たちは自分の罪深さ、自分中心を悔い改めてイエス様を救い主と信じ受け入れ、イエス様によって罪を赦していただきます。神様を知らず神様に背を向けて、隣人にも愛のないこんな私も、イエス様によって赦していただき、更に神の子として認めていただいたという大きな幸せにあずかっています。神様に感謝が溢れます。そして神様によって180度変えられた新しい心が与えられます。罪や肉の思いによって支配されるままに歩むのではなく、自分中心な罪に抵抗し、傲慢や貪欲の肉の思いに従う歩みを離れます。神様を恐ろしい方として避けるのではなく、神様に罪赦されていますから、むしろ進んで祈り、賛美します。そして何とかして隣人に役立つ歩みをしていきたいと思ひます。新しいいのち、新しい生きがいをいただきます。イエス様にあるいのちにもっと成長したいと願ひ祈ります。私たちは罪深い時代に生きていますが、その中でイエス様によって心洗われて、自分を捨て、自分の十字架を負ってイエス様に従って歩みたいと思ひます。私たちはどんな人も受け入れ、どんな人も愛し、どんな人のためにも幸せを作っていきたいと思ひます。これまでの自分の態度や考えを改めます。また信仰において成長します。

ですから自分のうちに塩を保ちましょう。塩は辛くてそのまま食べるには適していませんが、食べ物の中に入れると腐りにくくします。知らず知らずのうちに神様が仕えてくださるといふ幸せに目をとめず、人々に仕えてほしいと間違ひて願ひ、隣人を神様から大事にされている大切な人として愛さないで、私たちの信仰と愛は腐っていきます。イエス様のみ言葉から離れてしまひて自分のことばかり考えていると、小さな子どもを愛しておられるイエス様から目が離れます。だから弟子たちは自分が偉いと言ひ合ったり、あの人は仲間じゃない、と排除したりして、互いに平和に過ごせませんでした。塩というものは傷口に擦りこむと痛いですが、傷をいやし腐敗から守ります。塩はイエス様のみ言葉です。弟子たちはイエス様に、あなたこそ救い主です、と告白しました。その告白の中身が、神様がくださる幸せを信仰をもって受け取り、その信仰によって神様の愛しておられる人々を大切にして歩む生き方に現れるように、イエス様は修正し続けてくださいます。神様の前にも、人々に対しても持っていたのに気づいてなかつた自分の傲慢を打ち砕かれ、イエス様によって赦されて、新しいいのちを与えられて、小さな人を大切にす一週間となりますように互いに祈り合ひて進んでまいりましょう。

自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。マルコ 9:50b

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくださいませ。アーメン

讚美歌 356 番 1-3 節

1. 我が君(きみ)イエスよ、みゆるしなくば、
我はなすまじ、この身にとりて いかにか幸なる わざはありとも
2. わが君(きみ)イエスよ、みむねならずば、
我は学ばじ、かしこき人の いかにか優れし 教えありとも
3. わが君(きみ)イエスよ、み招きなくば、
われは行くまじ、うき世の友の いかにかいざなう 道はありとも **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏